

高島の仏教絵画とその世界

仏教の伝来と広まり

インドで説かれた仏の教えである仏教は、中国やチベット、朝鮮

半島を渡って6世紀半ばに飛鳥時代の日本に伝えられました。この教えは、当時の大和朝廷や有力豪族であった蘇我氏等に受け入れられ、奈良時代には全国に国分寺・国分尼寺が整備されました。市内では新旭町の大宝寺廃寺、藁園廃寺、今津町の大供廃寺、日置前廃寺などの白鳳・奈良時代の仏教寺院跡が確認



絹本着色仏涅槃図

また鎌倉時代に入ると、浄土宗、浄土真宗、臨済宗、曹洞宗等の鎌倉新仏教が庶民に広く受け入れられ、人々の生活の中に仏教の教えが広く浸透するようになっていきました。

されています。

平安時代になると、伝教大師 最澄が天台宗を、弘法大師 空海が真言宗を開き、特に近江国内には比叡山延暦寺の影響を受けた寺院が多く築かれるようになりました。



嶽山縁起絵

展示します。

これまで紹介される機会の少なかった未指定の仏教絵画の優品等を間近でご覧いただける絶好の機会です。ぜひご来場ください。

問 高島歴史民俗資料館
(36)1553

特別展 「高島の仏教絵画とその世界」

時 10月14日(金)～30日(日)
9時30分～16時30分

※月曜日は休館

所 藤樹の里文化芸術会館

主な展示品(予定)

- ・嶽山縁起絵 2幅(音羽・長谷寺蔵) 江戸時代
- ・絹本着色仏涅槃図(海津・宝幢院蔵) 室町時代 他

関連講座

「高島の仏教絵画とその世界」

講師 鯨井 清隆氏

(大津市歴史博物館 学芸員)

時 10月16日(日) 14時～15時30分

所 近江聖人中江藤樹記念館

料 200円

定 40人(事前申込制)

問・申 高島歴史民俗資料館

☎(36)1553

描かれた仏の教え

こうした仏教信仰の広まりとともに、市内の寺院では仏の教えを分かりやすく人々に示すための仏教絵画が数多く製作され、現在に継承されています。

今秋、藤樹の里文化芸術会館で開催する特別展「高島の仏教絵画とその世界」では、市内に伝わるそうした貴重な仏教絵画の一部を

編集感

10月と言えばスポーツの秋の季節ですね。今回は特集記事でも令和7年に滋賀県で開催予定の第79回国民スポーツ大会(国スポ)・第24回全国障害者スポーツ大会(障スポ)について取り上げています。市内にもスポーツで活躍する選手は多く、皆さんの活躍が楽しみです!私も広報する立場として国スポ・障スポ大会を盛り上げていきたいと思ひます。(K)